

二つの燃焼室で
大気汚染や悪臭もクリア

現在の一般的な火葬炉は、左図に示されるように、大きく「主燃室」「再燃室」の2つの燃焼室で火葬しています。

①棺台車の棺は、ご遺族に見送られ、②前室を通過して、③

主燃室に進みます。ここでご遺体の火葬を行うこととなります。

主燃室で発生する不完全燃焼の排ガスは、ばいじんや悪臭だけでなく、ダイオキシン類なども含まれています。これらの不完全燃焼の排ガスに対処するため、④再燃焼室が

あります。ここで850℃の高温で排ガスを燃焼し熱分解します。

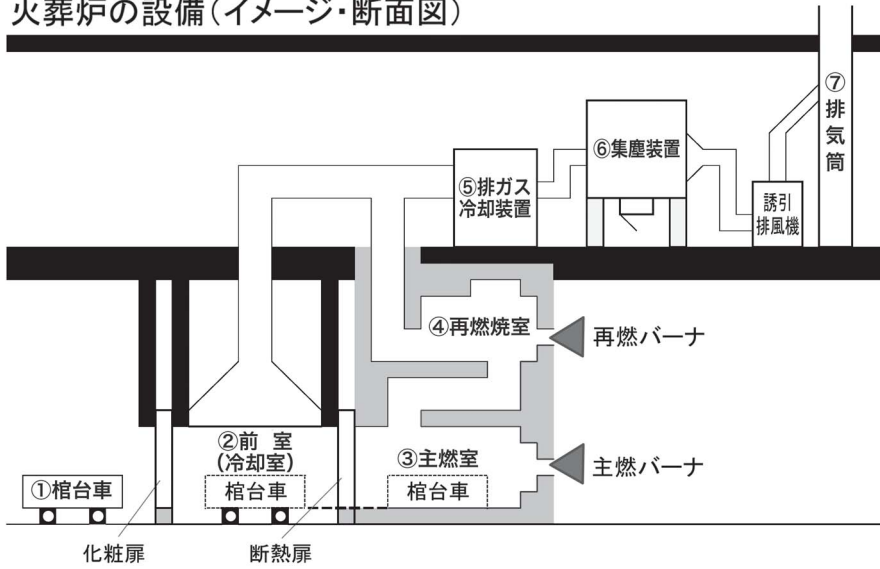
その後、ダイオキシン類の新規合成反応を防止するため、⑤排ガス冷却装置にて急冷し、⑥集塵装置で最終的なばいじんを除去して、⑦排気筒へ流れます。

このことにより、大気汚染や悪臭に対する課題がクリアされ、ダイオキシン問題にも対応した環境にやさしい施設となつていくのです。

問合せ

市民課
35-3496

火葬炉の設備(イメージ・断面図)



風の丘葬祭場(大分県中津市)

ほかの自治体には
こんな火葬場があります



瞑想の森市営斎場(岐阜県各務原市)

火葬炉のメンテナンス改修工事について(お願い)

市では、市内火葬場にある6つの火葬炉を定期的に改修し、施設の適切な維持管理を行っています。

今年度は、高山市営火葬場の2号炉(こまくさ)の耐火材の巻替改修及び台車の耐火材貼替工事を行っています。

この工事に伴い8月29日(月)から9月15日(木)までの期間、高山市営火葬場の火葬予約について、一部、利用制限をさせていただきます。

期間中、ご不便をおかけしますが、炉の機能を維持するための必要な工事でありますので、ご理解をお願いします。